

若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）

「地域研究のためのフィールド活用型現地語教育」

2012 年度募集要項

2012 年 4 月 20 日改訂
ITP 事務局

概要：

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科では、東南アジア研究所と共同で、日本学術振興会 若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）「地域研究のためのフィールド活用型現地語教育」を実施しています。

計12の海外パートナー機関¹の協力のもとに、地域研究現地語習得のためのフィールド派遣を大きな柱とした「インプット・レベル」、さらにこれまでの研究成果を国際的な場で発信する能力を強化する「アウトプット・レベル」の2つのレベルに分けて派遣を行います。地域研究に必要な現地語の習得を通してフィールドの全体像に迫り、同時に世界でも類を見ない文理融合型地域研究の成果を国際的に発信することが、本事業の目的です。

なお、ITPは本年10月末日をもってプログラムを終了します。これに合わせて派遣事業も10月末日で終了するため、例年より申請時期が早くなっていますので、十分注意して下さい。

※本プログラムの詳細は、ITP ホームページをご参照ください。

若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）
「地域研究のためのフィールド活用型現地語教育」
<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/itp/>

1. インプット・レベル（現地語習得）派遣

（1）概要

本研究科に在籍する大学院生を対象に、10の海外パートナー機関に2ヶ月以上3ヶ月以内の期間派遣し、地域研究に真に役立つ現地語学習に関する費用を支援します。

（2）応募資格

- ・ 本研究科に在籍する大学院生。
- ・ 主として、博士予備論文を未だ提出していない者。
- ・ 学振のDC、PD 研究員は対象とならない。
- ・ 休学中の者は対象とはならない。
- ・ 2回目の応募は可能だが、派遣が初めての者を優先する。

（3）募集人数

10名程度

（4）派遣期間

原則として、2012年6月15日～2012年10月15日の間で、原則2ヶ月以上3ヶ月以内。

*2012年4月現在

(5) 2012 年度募集 海外パートナー機関

- ① インドネシア：ハサヌディン大学（担当教員：岡本正明、甲山治）
研修言語：インドネシア語、ブギス語、マカッサル語など
- ② ラオス：ラオス国立大学（担当教員：竹田晋也）
研修言語：ラオス語
- ③ ベトナム：ベトナム国家大学ハノイ校（担当教員：伊藤正子）
研修言語：ベトナム語
- ④ インド：発展社会研究所（担当教員：藤倉達郎）
研修言語：ヒンディー語、ベンガル語、マラーティー語、ウルドゥー語など
- ⑤ ヨルダン：ヨルダン大学（担当教員：小杉泰）*
研修言語：アラビア語
- ⑥ エチオピア：アジスアベバ大学（担当教員：重田真義）
研修言語：オロモ語、シダマ語、アムハラ語、ティグレ語、オモ系諸語など
- ⑦ ケニア：ナイロビ大学（担当教員：太田至）
研修言語：スワヒリ語、キクユ語、ルオ語、カレンジン語、マサイ語など
- ⑧ ボツワナ：ボツワナ大学（担当教員：荒木茂）
研修言語：ツワナ語、カラング語、カラハリ語、ズールー語、アフリカーンス語、スワヒリ語、リンガラ語など
- ⑨ カメルーン：ヤウンデ第一大学（担当教員：木村大治）
研修言語：ハウサ語、フルベ語、バントゥー系諸語など

*但し、アラビア語研修機関の最新情報に関しては ITP 事務局まで。

*重要 <タイ：タマサート大学に関して>

例年、授業の開講期間は 12 月～3 月となります。今年度の派遣期間に合わせて、調整を試みましたが、残念ながら、時期を変更した開講には至りませんでした。よってタイ派遣への募集は行いません。

(6) 支援する経費

- ・ 渡航先への航空運賃及び査証代
- ・ 滞在費*（月約 15 万円。5000 円/日で日割り計算。学費を含む。）
- ・ 語学試験費用（派遣直前から派遣期間中・帰国後 1 年以内の試験費用）

*例外的なケースがあります。詳細は ITP 事務局まで。

(7) 申請方法

若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）インプット・レベル派遣応募申請書に必要事項を記入の上、2012 年 4 月 26 日（木）から 5 月 2 日（水）正午までに ITP 事務局宛て（itp_app@asafas.kyoto-u.ac.jp）にメールにて提出すること。

(8) 選考基準

次の 2 点を基準に選考する。

- ① 自身の研究に関して、明確な問題意識と研究計画を提示できること。
- ② 現時点での語学力の高低は問わないが、これまでの語学習得経験を通して、自身の語学習得法を持っていること。

(9) 選考方法

第一次選考	書類	※2012年5月2日(水)正午 書類提出締め切り 2012年5月7日(月)メールにて第一次選考結果を通知
第二次選考	面接	※2012年5月11日(金)12:00~(予定。日程は変更される可能性もあります)

(10) 帰国後成果提出

帰国後に下記の成果の提出が求められる。詳しくは、次の URL を参照。

<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/itp/dispatch/pdf/duties.pdf>

1~3の提出は帰国後1ヶ月以内、提出先は、ITP事務局です。提出しない場合、または提出が遅れた場合は、「臨地語学演習Ⅰ」の各自の評価に影響するため注意してください。

1. 報告書
 - ① 日本語(フォーマットあり)
 - ② 英語(フォーマットあり)
 - ③ 研修言語(本人の研究内容、語学研修などからテーマを選んで自由に記述すること。簡単な日本語要旨を添えること。)
2. 専門用語集
 - ① 各自の研究トピックに関する専門用語リスト(研修言語、日本語、英語[仏語]の対訳。最低100語)
 - ② ①に対応する音声データの収録ファイル
3. 写真/ビデオなど
4. プラクティカル・ランゲージ・セミナー等での報告
5. 国際シンポジウムでの発信

(11) 注意事項

- ・応募者は、自身の指導教員とよく相談して、語学研修内容、期間を決定すること。
- ・各受け入れ機関の詳細な情報(HP上に掲載、もしくは担当教員に確認)を考慮した上で、適切な派遣時期を決定すること。
- ・ITPによる海外研修を実施中に、他経費による海外研修を連続して行うことは可能ですが、その場合、以下のような制限がありますので留意してください。また事前に指導教員・事務局とよく相談をすること。

ITPならびに他経費によるフィールドワークを希望する院生:

- ① ITP海外研修への応募資格はありますが、他経費による派遣期間と本プログラムの派遣期間を明確に区分して届出する必要があります。
- ② 11月以降に帰国することも可能ですが、その場合、11月以降の滞在費および復路の航空運賃は支給されません。

③ 上記は ITP の条件です。他経費の条件についても十分注意してください。

・ ITP 支援を受けた後に、論文等を発表したり、学会発表等を行ったりする場合は、下記の例にならって但し書きを付記すること。

① 学会誌等

本事業を通じて得られた成果に基づいて作成された論文等を学会誌等に掲載する場合は、本事業による研究であることを下記の例を参考に記載してください。

<例>

和文：本研究では、独立行政法人日本学術振興会の「若手研究者国際・トレーニング・プログラム (ITP)」による支援を得た。

英文：This work was supported by the JSPS International Training Program (ITP).

② 学会発表等

学会や講演会で研究成果を発表する際には、本事業として交付された資金による成果であることに触れ、プロシーディングスなどにも上記①の例にならって記載してください。

2. アウトプット・レベル（国際発信力向上）派遣

(1) 概要

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科及び東南アジア研究所に在籍する予備論文執筆後の学生、PD、助教レベルを対象に、海外パートナー機関へ派遣し、国際発信力向上への支援を行います。

(2) 応募資格

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科及び東南アジア研究所に在籍する予備論文執筆後の大学院生、研究員、研修員等、助教。

学振の DC、PD 研究員は対象とならない。

休学中の者は対象とはならない。

(応募資格があるかどうか不明の場合は ITP 事務局へ問い合わせること。)

(3) 募集人数

1 名程度

(4) 派遣期間

原則として、2012 年 6 月 15 日～2012 年 10 月 15 日の間で、2 ヶ月以上 3 ヶ月以内。

(5) 2012 年度募集 海外パートナー機関

① イギリス：ロンドン大学（担当教員：岡本正明、東長靖、高田明）

研修言語：英語

<http://www.soas.ac.uk/programmes/prog8469.html>

② フランス：フランス国立科学研究センター（担当教員：東長靖、岡本正明、高田明）

研修言語：フランス語

http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/itp/partners/pdf/France_CNRS.pdf

- ③ ヨルダン：ヨルダン大学（担当教員：小杉泰）＊
研修言語：アラビア語
<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/itp/partners/pdf/cairo-univ.pdf>
＊但し、アラビア語研修機関の最新情報に関しては ITP 事務局まで。

- ④ インドネシア：ハサヌディン大学（担当教員：岡本正明、甲山治）
研修言語：インドネシア語・ブギス語・マカッサル語
<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/itp/partners/pdf/hasanuddin-univ.pdf>

(6) 支援する経費

1. 渡航先への航空運賃及び査証代

- ① イギリス：滞在費（月 20 万円。6660 円/日で日割り計算）
- ② フランス：滞在費（月 20 万円。6660 円/日で日割り計算）
- ③ ヨルダン：滞在費（月 18 万円。6000 円/日で日割り計算）
- ④ インドネシア：滞在費（月 18 万円。6000 円/日で日割り計算）

2. 派遣先国で開催される国際会議参加費用（事前に要相談）

(7) 申請方法

若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）アウトプット・レベル派遣応募申請書に必要事項を記入の上、**2012 年 4 月 26 日（木）から 5 月 2 日（水）正午までに ITP 事務局宛てに（itp_app@asafas.kyoto-u.ac.jp）にメールにて提出すること。**

<申請書の提出タイプ>

イギリスへの派遣希望者：英語申請書のみ

フランスへの派遣希望者：日本語およびフランス語申請書

ヨルダンへの派遣希望者：日本語およびアラビア語申請書

インドネシアへの派遣希望者：日本語およびインドネシア語申請書

(8) 選考基準

すでにフィールド調査実施のための語学力は十分持っていることを前提とし*、短期間（2ヶ月以上3ヶ月以内）の海外研修によって国際発信力を高めることが強く期待されるかどうかを重視して判断する。

*イギリス、フランスは応募時に直近の語学検定試験結果の提出が求められる。

(9) 選考方法

第一次選考	書類	※2012年5月2日（水）正午 書類提出締め切り 2012年5月7日（月）メールにて第一次選考結果を通知
第二次選考	面接*	※2012年5月11日（金）12:00～（予定。日程は変更される可能性もあります）

*面接時に語学試験が課されることもあります。

(10) 帰国後成果提出

帰国後に下記の成果の提出が求められる。詳しくは、次の URL を参照。

<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/itp/dispatch/pdf/duties.pdf>

1.～2.の提出は帰国後1ヶ月以内、提出先は、ITP事務局です。提出しない場合、または提出が遅れた場合は、「臨地語学演習Ⅱ」の各自の評価に影響するため注意してください。

1. 報告書（日本語および英語。フォーマットあり）
2. 研修言語による論文1本（ドラフト可）
3. 写真／ビデオなど
4. プラクティカル・ランゲージ・セミナー等での報告
5. 国際シンポジウムでの発信

(11) 注意事項

- ・応募者は、自身の指導教員とよく相談して、語学研修内容、期間を決定すること。
- ・各受け入れ機関の詳細な情報（HP上に掲載、もしくは担当教員に確認）を考慮した上で、適切な派遣時期を決定すること。
- ・他経費による海外研修を実施中に、ITPによる海外研修を連続して行うことは可能ですが、その場合、以下のような制限がありますので留意してください。また事前に指導教員・事務局とよく相談をすること。

ITPによる海外研修と同時に、他経費による海外派遣を希望する院生：

- ① ITP海外研修への応募資格はありますが、他経費の助成による派遣期間と本プログラムの派遣期間を明確に区分して届出をする必要があります。ご注意ください。
 - ② 11月以降に帰国することも可能ですが、その場合、11月以降の滞在費および復路の航空運賃は支給されません。
 - ③ 上記はITPの条件です。他経費の条件についても十分注意してください。
- ・ITP支援を受けた後に、論文等を発表したり、学会発表等を行ったりする場合は、下記の例にならって但し書きを付記すること。

② 学会誌等

本事業を通じて得られた成果に基づいて作成された論文等を学会誌等に掲載する場合は、本事業による研究であることを下記の例を参考に記載してください。

<例>

和文：本研究では、独立行政法人日本学術振興会の「若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）」による支援を得た。

英文：This work was supported by the JSPS International Training Program (ITP).

③ 学会発表等

学会や講演会で研究成果を発表する際には、本事業として交付された資金による成果であることに触れ、プロシーディングスなどにも上記①の例にならって記載してください。

●募集に関するお問い合わせ

ITP事務局／PLESO（プラクティカル・ランゲージ教育支援室）

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 総合研究2号館別館2階（総合研究2号館東隣）

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

担当：西川（月・水・金 10:00-17:00）

E-mail：itp@asafas.kyoto-u.ac.jp

Tel：075-753-9649

Fax：075-753-9655

URL：<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/itp/>